

小山工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	法学（リベラルアーツ）	
科目基礎情報							
科目番号	0161			科目区分	一般 / 必履修		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	機械工学科			対象学年	5		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	教科書は特に指定しない。参考書：参考書：井田良『基礎から学ぶ刑事法 第6版補訂版』有斐閣、2022年						
担当教員	上野 哲,岡田 一郎						
到達目標							
1. 新聞・TV等で報じられているニュースの内容や背景を理解し、それを他者に正しく説明することができる。 2. 刑事法のあり方について自分なりの見解を述べることができる。 3. メディアリテラシーを身に付け、情報の正確さについて判断できるようになると共に、特定の事項について自力で情報を取捨選択することができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	新聞・TV等で報じられているニュースの内容や背景を理解し、それを他者に正しく説明することが充分にできる。		新聞・TV等で報じられているニュースの内容や背景を理解し、それを他者に正しく説明することができる。		新聞・TV等で報じられているニュースの内容や背景を理解し、それを他者に正しく説明することができない。		
評価項目2	刑事法のあり方について自分なりの見解を述べることが充分にできる。		刑事法のあり方について自分なりの見解を述べるができる。		刑事法のあり方について自分なりの見解を述べるができない。		
評価項目3	メディアリテラシーを身に付け、情報の正確さについて判断できるようになると共に、特定の事項について自力で情報を取捨選択することが充分にできる。		メディアリテラシーを身に付け、情報の正確さについて判断できるようになると共に、特定の事項について自力で情報を取捨選択することができる。		メディアリテラシーを身に付け、情報の正確さについて判断できるようになると共に、特定の事項について自力で情報を取捨選択することができない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	刑事法のあり方に関する考察と、メディアリテラシーを踏まえた情報の取捨選択のトレーニングに主眼をおく。						
授業の進め方・方法	3つの到達目標について、定期試験と授業中の発言や報告によって総合的に判断し、60%以上の成績で達成とする。定期試験70%、授業中の発言や報告30%。						
注意点	特になし。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	1. 法学の基礎		左記内容を理解する		
		2週	2. 人はなぜ罪を犯すのか		左記内容を理解する		
		3週	3. 刑罰		左記内容を理解する		
		4週	4. 罪刑法定主義		左記内容を理解する		
		5週	5. 刑法各論		左記内容を理解する		
		6週	6. 犯罪論の基礎		左記内容を理解する		
		7週	7. 犯罪論（1）：構成要件		左記内容を理解する		
		8週	8. 犯罪論（2）：違法性		左記内容を理解する		
	2ndQ	9週	9. 犯罪論（3）：責任		左記内容を理解する		
		10週	10. 故意と過失		左記内容を理解する		
		11週	11. 未遂犯と共犯		左記内容を理解する		
		12週	12. 量刑		左記内容を理解する		
		13週	13. 刑事訴訟法		左記内容を理解する		
		14週	14. 刑事手続		左記内容を理解する		
		15週	15. 犯罪者の処遇		左記内容を理解する		
		16週	16. 定期試験		左記内容を理解する		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	0	30	100
基礎的能力	70	0	0	0	0	30	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0